

LiSA サポーターズ外部研修等参加報告書

- 1 研修等名 「令和 5 年度 県高 P 連専門教育部会 総会」
- 2 会場 神奈川県立小田原城北工業高等学校
- 3 参加者 会長、校長
- 4 日時 令和 5 年 6 月 24 日（土）13：00～14：20
- 5 内容

神奈川県立高等学校 PTA 連合会 専門教育部会 令和 5 年度定期総会

開会の言葉 小田原城北工業高等学校 PTA 会長

県高 P 連挨拶 神奈川県立高等学校 PTA 連合会 副会長

主管校校長挨拶 小田原城北工業高等学校 校長

本校は栢山駅徒歩 7 分と立地条件も良く、長閑な田園地帯の中にあり、見渡せば箱根足柄の山並みを見渡せる恵まれた環境にあります。また、創立 60 周年を迎え地域に多くの卒業生を送り出し、小田原市からもマンホール蓋のデザインを依頼される等地域に根差した学校であると挨拶された。

1 定数確認 専門教育部会会員 20 校

（以下「高等学校 PTA」を省略し、学校名で専門科が分からない学校は括弧内に記載する。）

当日出席 9 校

{小田原城北工業、神奈川総合産業、県立商工、厚木商業、中央農業、吉田島（都市農業・生活科学・食品加工・環境緑地）、平塚工科、横須賀南（福祉）}

委任状出席 11 校

{藤沢工科、平塚農商、二俣川看護福祉、神奈川工業、相原（畜産科学・食品科学・環境緑地・総合ビジネス）、川崎工科、海洋科学、向の丘工業、三浦初声（都市農業）、小田原東（総合ビジネス）、相模原弥栄（体育・音楽・美術）、津久井（福祉）}

※磯子工業高等学校は、令和 4 年度で県高 P 連を退会されました。

2 議長選出

議長は本年度主管校の小田原城北工業高等学校 PTA 会長が選出された。

3 議案審議

(1) 令和 4 年度 事業報告、会計報告

令和 4 年度主管高であった神奈川総合産業高等学校会長より以下の説明がされた。

① 事業報告

6 月 総会 書面開催（新型コロナウイルス感染防止により。）

10 月 第 51 回 専門教育部会大会（会場：神奈川総合産業高等学校、詳細は下記参照）

2 月 会計監査（神奈川総合産業にて会計処理確認後、監査役三浦初声高等学校に郵送し、監査役高にて監査実施。）

3 月 引継ぎ。

※専門教育部会大会内容

開催日 令和4年10月1日(土)

本校の特色を生かした4系1分野各々について一部を体験していただいた。

イ、レーザー加工機による木片ネームストラップ製作

ロ、視覚、臭覚の錯覚体験実験

ハ、サイコロ状のブロックを使った立体玩具製作

ニ、レゴマインドストームを使って動作プログラミング体験

ホ、リング状の格子かごとリボンテープを使った網かご製作

② 会計報告

収入の部

県高P連より事業費 100,000円+5,000円/校×21校=205,000円(予算の通り)

事業費残金返納 △155,148円

49,852円

※令和4年度は21校(磯子工業高等学校を含む)

支出の部

項目	予算案	決算額	差し引き	備考
案内看板等	10,000	0	10,000	
講習費	130,000	38,177	91,823	資料、材料費
会議費	30,000	8,863	21,137	お茶、交通費、名札代
資料費	20,000	0	20,000	
通信費	10,000	1,932	8,068	
予備費	5,000	880	4,120	返金振込代
支出合計	205,000	49,852	155,148	

計上された予算に対し支出が抑えられたのは学校の機材を使用し、材料費もあまり掛からなかったことによるもので、講師依頼をした場合は相当額の支出が見込まれる。以上の説明がされた。

(2) 会計監査報告

会計監査の三浦初声高等学校が欠席の為、代わりに本年度主管校会長より会計監査報告がされ、監査報告書の通り適正に処理されていると説明された。

質疑応答

会員校より、本来の目的は専門教育校各校の特色を周知していただくことであり、講師依頼は主旨から外れると思われ、各校の取り組みを体験していただくことが肝要であるとの意見が出された。また、会計監査報告書の日付と事業報告資料の月次記載がずれていることから確認願いたいとされた。

議長より、会計監査が欠席の為、確認後通知することとされた。

審議の結果、監査報告の日付については確認することとし、決算額については問題が無いことから承認することとされた。

(3) 本年度役員選出

令和 5 年度役員および会計監査について専門教育部会規約第 6 条に基づき議長より以下の案が提示され、承認された。

会 長 小田原城北工業高等学校 PTA 会長
副会長 横須賀南高等学校 PTA 会長
総 務 小田原城北工業高等学校 PTA 副会長 2 名
会 計 小田原城北工業高等学校 PTA 会計
会計監査 神奈川総合産業高等学校 PTA 会長

(4) 本年度事業計画案、予算案について

令和 5 年度主管校小田原城北工業高等学校会長より以下の説明がされた。

① 事業計画案

6 月 定期総会
10 月 専門教育部会大会
1 月 会計監査

本年度主管校校長より、専門教育部会大会は「横浜 STEAM EXPO 2023」に初の試みとして専門教育フェアを組入れる形での開催となることから横浜 STEAM EXPO 2023 の見学という形での開催としたい。従来とは異なる試みであるが教職員の負担軽減も考慮した上での提案とした。また、これから検討していく内容であるが、専門教育部会加盟各校 PTA の方々には専用のパスを用意して展示や体験コーナーを楽しんでいただくことを考えたいと説明された。

② 予算案

収入の部

県高 P 連より事業費 100,000 円+5,000 円/校×20 校=200,000 円

(1 校減につき前年度予算対比△5,000 円になる。)

支出の部

項 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
案内看板等	10,000	10,000	0	案内板等
大会費	100,000	130,000	△30,000	横浜 STEM EXPO 参加費
会議費	70,000	30,000	40,000	お茶代、名札代、交通費
資料費	5,000	20,000	△15,000	資料印刷費等
通信費	5,000	10,000	△5,000	会員高校等への通信費
予備費	10,000	5,000	5,000	振込手数料、その他
支出合計	200,000	205,000	△5,000	

以上の説明がされた。

質疑応答

会員校より、横浜 STEM EXPO（専門教育フェア）は専門教育高校を広く知っていた

だく催しであり、主な対象者は高校受験を控えた生徒および保護者であると考えます。この催しを専門教育部会大会に当てはめることは本来の主旨から外れると思われま。従って、出来れば従来の様に主管校の見学と体験を実施されることを希望するとの意見が出された。また、予算案について交通費の説明を求められた。

主管校校長より、横浜 STEM EXPO も主催は外部組織であるが実施の展示、体験、発表は各専門教育校の生徒が主体として活動するので、見ていただく価値は十二分にあります。今回初の試みでイレギュラーな提案かも知れないが主管校としては会員校全てが係る初の催しであることから、提案させていただいたと説明された。

また、交通費については本校の役員が横浜 STEM EXPO に出向く費用等を見込んだと説明されました。

審議の結果、事業計画案、予算案は承認されました。

(5) 専門教育部会主管校輪番について

本年度を基準に以下の輪番制であるが、磯子工業高等学校が県高 P 連を脱退されたため繰り上がりが生じると説明された。(以下「高等学校」を略す。)

輪番順

本年度主管校：小田原城北工業→横須賀南→平塚農商→横須賀工業→小田原東→中央農業→平塚工科→厚木商業→相模原弥栄→津久井→藤沢工科→古田島→二俣川看護福祉→神奈川工業→相原→川崎工科→県商工→海洋科学→向の丘工業→三浦初声→神奈川総合産業→小田原城北工業に戻る。

会員校から学校統廃合による影響について質疑があった。

基本的に統合の場合は校名変更し上位位置に入る。完校となる場合は下位の学校が繰り上がると説明され、承認された。

以上をもって議案全ての審議が終了したので議長を解任し、閉会とした。

※小田原城北工業高等学校デザイン科の生徒による小田原市マンホール蓋のデザイン



小田原市 HP より:昭和から平成、令和と時代が変わり、マンホール蓋の新しいデザインを、学生にデザインしてもらいたいという想いと地域連携を目的とし、新デザインを神奈川県立小田原城北工業高等学校デザイン科に依頼しました。デザイン科の全生徒 103 人からデザインを提出してもらい、3 回の選考を経て、デザイン科 3 年生のデザインに採用が決定しました。

小田原城、学び橋、小田原ちょうちん、梅など小田原の魅力が詰まっており、迫力のあるデザインが採用の決め手でした。

以上のとおり報告致します。

LiSA 会長でした。